



c / i c k !

vol.23

情報処理センター通信

CONTENTS

- ◆情報処理センターレポート
 - ・標的型攻撃について1-2
 - ・第12回国立大学法人情報系センター協議会参加報告3
- ◆編集後記3



◆情報処理センターレポート

●標的型攻撃について

つい先日、日本年金機構より多数の個人情報が出た事案の報道にて標的型攻撃の言葉が多く出ていたの
で聞いたことがある方は多いと思いますが、具体的にはどのようなものかご存知でしょうか。一般的なサイバー攻
撃は不特定多数に対して行われるものに対して、標的型攻撃は特定の組織を狙ったものです。一般的な手法と
しては、ウイルスが添付されたメールをその組織の構成員宛てへ送りつけるのですが、非常に巧みに関係者か
ら送られたことを疑わせない内容にしてあり、気付きにくいことが多いようです。また、送信先も局所的であるこ
からウイルス対策ソフトの対応が遅くなり、検知できないことも多いのが実情です。

もし以下のようなメールが届いた時、もしかしたら攻撃メール？と疑うことはできますか？

件名:【重要】成績についての連絡(または「研究費について」)
送信者:東京学芸大学学務課(または「研究支援課」)

The screenshot shows an email client interface with a search bar at the top right containing 'メールを検索...'. Below the search bar are buttons for '移動', '印刷', '迷惑メール', '削除', '表示', and '操作'. The email list shows two entries:

	From	件名	日付
1	東京学芸大学学務課	【重要】成績についての連絡	2015/
	東京学芸大学研究支援課	【重要】研究費についての連絡	2015/

Below the list, there are buttons for '移動', '印刷', '迷惑メール', '削除', '表示', and '操作'. The email content is displayed in a large text area:

本文:
〇〇様

誠に申し訳ございませんが、先に決定しました成績(研究費)について誤りがありました。
至急添付の資料をご確認願います。

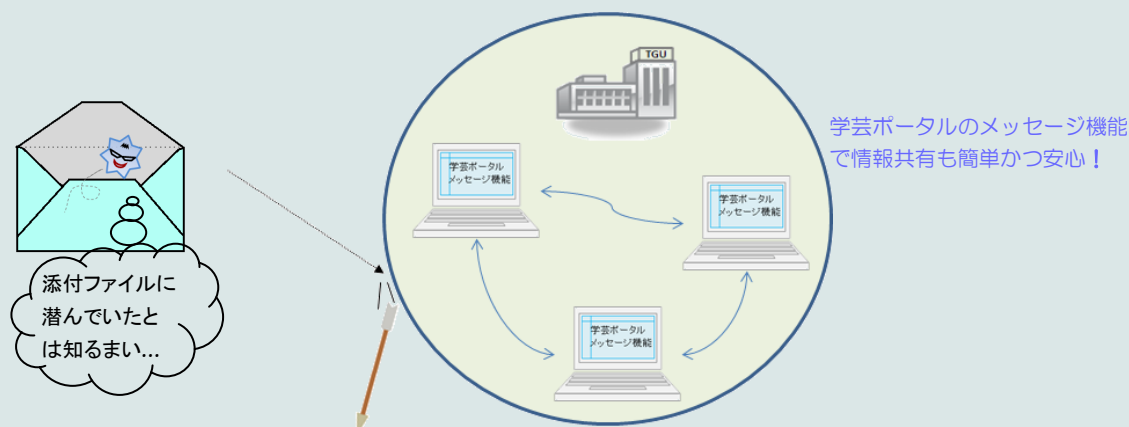
以上、宜しくお願い致します。

【添付ファイル:訂正資料.doc】

● 標的型攻撃について <前ページの続き>

思いつく単位があったら、丁度申請していた研究費があったら、迷いなく開いたかもしれない、と思う方もいるのではないのでしょうか。変だな、と思った方もウイルス対策ソフトが反応しなければ添付ファイルを開いたかもしれません。

このように正規のメールか悪意のあるメールかの見分けが非常に困難なのですが、逆にいうと組織や企業は、もうメールで直接情報を送りつけたり、ログインを促したりするようなことはほぼ無いといっても過言ではありません。



東京学芸大学では学芸ポータルという学内者のみが参照できるシステムがありますので、その中のメッセージ機能は比較的安全にリンクアドレスやファイルの送付が可能ですので、これを機会に是非ご活用ください。

学外者とのメールのやり取りでは、ある程度お互いしか知り得ない言葉を多く用いることを意識したり、本学のWebファイルシステムなどを活用してファイルの受け渡しを行うなどの工夫が必要です。

最後に、標的型攻撃は、万全なセキュリティシステムを導入しても攻撃者は利用者の心理を巧みに利用しすり抜けてきます。最終的には皆さんにセキュリティ意識と対策が不可欠になりますので、以下について心に留め、自分をそして大学を守る為にご協力をよろしくお願い致します。

- ・情報セキュリティはもう守られるだけでは保てません、自分で自分を守る行動を。
- ・怪しいと思ったらスルーせず放置せず通報を(最寄りの人・窓口・情報処理センターなど)。
- ・メール以外の安全なシステムの活用を検討しましょう。

《参考》

- ★ 国民のための情報セキュリティサイト(総務省)

標的型攻撃への対策

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/business/staff/05.html

- ★ IPAテクニカルウォッチ「標的型攻撃メールの例と見分け方」(情報処理推進機構)

<http://www.ipa.go.jp/security/technicalwatch/20150109.html>



● 第12回国立大学法人情報系センター協議会参加報告

2015年7月2日から二日間、岐阜大学主催による総会が岐阜駅に隣接するじゅうろくプラザにて開催され、本学からは宮寺センター長、森本准教授、および情報基盤課職員2名が参加しました。

初日はまず同時開催の第10回国立大学法人情報系センター研究集会が行われ、「クラウド／データセンター利用に向けた大学情報基盤の現状と課題」というテーマで3大学・機関の報告と3大学の事例紹介がありました。続いて総会第一部が開催され、文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室長(渡邊和良氏)より「学術情報基盤整備の動向について」という演題で、アカデミッククラウドの推進・セキュリティ対策の見直しと整備・オープンサイエンスの取り組みについて、国立情報学研究所長(喜連川優氏)より「クラウドドライブとしての100ギガ新SINET」という演題で、世界でのクラウド活用の動向やクラウドを導入するうえでの高速高信頼のバックボーンとなるSINET5を紹介する旨の講演がありました。

二日目は引き続き総会が第二部として開催され、議事後、幹事会・センター長懇談会・各地区幹事校が取りまとめた地区報告・分科会の各報告があり、意見交換や情報交換が行われました。

全体を通しては、やはり急激に注目を集めているクラウドの導入・活用についての話題が大半を占め、使いたくなくてもセキュリティへの不安の声、予算確保やバックボーン回線の整備などの様々な問題があり導入になかなか踏み切れない大学は多いようで、事例紹介などに対しては質問が多くありました。

【参考】

第12回国立大学法人情報系センター協議会(岐阜大学)

<https://www.imc.gifu-u.ac.jp/nipc2015/>



編集後記

先日、実家に私を名乗る者から電話があり、先輩の保証人となってしまい至急お金が必要とのこと。実に典型的な「振り込め詐欺」でした。しかし先輩の名前に全く心当たりが無ければ、声も全く異なっていたのにもかかわらず、怪しいと感じるまでしばらくかかったとのこと。

また、私の私的メールアドレスに銀行のネットサービスにて第三者によるアクセスがあった旨のメールが届き、文中にログイン先のアドレスが記載されていました。最初、これは大変とすぐにリンクをクリックしそうになりましたが、なんだか怪しい。よくよくメールを確認してみると、送信元のメールアドレスが某プロバイダのもの、送信先へ自分を含む複数のアドレスが羅列、文中のリンクアドレスが銀行のドメインと全く別物など不審な点がおおいので、銀行のWebサイトを見ると第三者によるアクセスのお知らせは無く、代わりに銀行を装った不審なメールに注意する掲載がありました。うかつにリンクをクリックする前に気付いてホッとしたもの、自分が某銀行の口座を持ち連絡先に指定しているメールアドレスがすでに漏れているということにゾッとしました。

もうネット上では多くの個人情報丸裸状態で散乱しており、パスワードというわずかなセキュリティにてギリギリ保っているのが大多数のようです。組織的なセキュリティ対策が急務と叫ばれていますが、個人的なセキュリティ対策も今すぐに見直すべきと感じたこの頃です。(竹)



国立大学法人 東京学芸大学

情報処理センター

☐TEL 042-329-7710 ☐FAX 042-329-7711

☐URL <http://www.u-gakugei.ac.jp/~ipcenter/>

☐E-mail ipcenter@u-gakugei.ac.jp